

プレスリリース

エイズ対策の成果が損なわれ、何百万の命が危険に

予防と治療の進歩が世界中で停滞し、何百万もの人々が深刻な危険にさらされています。東ヨーロッパ・中央アジア地域、ラテンアメリカ地域、中東・北アフリカ地域はこの数年、年間の新規 HIV 感染が増加。新規感染が減少していたアジア太平洋地域でも、増加に転じていることが UNAIDS のデータで示されています。新規感染を防ぎ、エイズ流行を終わらせるには、流行の拡大要因である不平等の解消に向けた行動がいま、緊急に必要です。

https://www.unaids.org/en/resources/presscentre/pressreleaseandstatementarchive/2022/july/20220727_global-aids-update

モントリオール/ジュネーブ 2022 年 7 月 27 日 COVID-19 その他の世界的危機により、HIV パンデミック対策は過去 2 年にわたって後退を続け、資金も縮小している。その結果、何百万という人たちの命が危険に曝されていることを国連合同エイズ計画（UNAIDS）の最新データが明らかにしている。カナダのモントリオールで開催される第 24 回国際エイズ会議（AIDS2022）に先立ち、UNAIDS は報告書『In Danger（危機的状況）』を発表した。

世界全体でみると、2021 年の新規 HIV 感染件数の前年比減少率はわずか 3.6%にとどまり、2016 年以降の年間減少率としては最も小さい。東ヨーロッパ・中央アジア地域、中東・北アフリカ地域、ラテンアメリカ地域は、過去数年にわたって年間の新規 HIV 感染数が増加している。また、UNAIDS データによると、世界で最も人口規模が大きいアジア太平洋地域はこれまで減少が続いていたが、増加に転じている。これらの地域の増加傾向は警戒すべき状態にある。東部・南部アフリカ地域でも、2021 年の前年比減少率は大幅に鈍化した。前向きなニュースもある。西部・中部アフリカとカリブ地域では新規 HIV 感染が著しく減少している。ただし、これらの地域でも HIV 対策資金は逼迫する恐れがある。

「データは世界のエイズ対策が深刻な危機に直面していることを示しています。急速に回復できなければ、COVID-19 や大規模な人口移動その他の危機の中で、エイズパンデミックが息を吹き返し、私たちの対策の基盤は失われてしまいます。何百万という人の予防可能な死を私たちは止めなければならないということを思い出しましょう」と UNAIDS のウィニー・ビヤニマ事務局長はいう。

対策が後退したことで、昨年は年間約 150 万件の新規感染が発生している。世界の目標より 100 万件以上多くなっているのだ。

各国国内および国際間の著しい不平等が HIV 対策を停滞させ、HIV の流行がその不平等をさらに拡大することになる。

新規感染は若い女性および思春期の少女の間で極端に多い。2021 年には 2 分間に 1 人が新たに感染して

いる状態だ。特にアフリカの若い女性と少女への影響は、パンデミックで HIV 治療および予防のサービスが混乱する中で拡大し、10 代の妊娠やジェンダーに基づく暴力の急増により、何百万人も少女が学校に通えなくなっている。サハラ以南のアフリカでは、思春期の少女と若い女性が HIV に感染するリスクが少年や若い男性の 3 倍も高い。

この 2、3 年の混乱の中で、キーポピュレーションのコミュニティの多くがとりわけ大きな影響を受け、HIV 陽性率も高くなっている。UNAIDS データによると、世界各地で、ゲイ男性など男性とセックスをする男性（MSM）の新規感染リスクが高まっている。2021 年現在の UNAIDS キーポピュレーション・データによると、MSM は同年代の男性の平均と比べ、HIV 感染リスクが 28 倍高い。注射薬物使用者は 35 倍、セックスワーカーは 30 倍、トランスジェンダー女性は 14 倍高い。

人種間の不平等も HIV リスクを高めている。英国と米国では、黒人よりも白人の方が新規 HIV 診断の減少が大きい。オーストラリア、カナダ、米国などでは、非先住民コミュニティよりも先住民のコミュニティの方が、HIV 感染率が高い。

報告書はまた、すべての HIV 陽性者が命を救う抗レトロウイルス治療を受けられるようにする努力も行き詰まっていると指摘している。2021 年には、HIV 治療を受ける人の増加ペースが過去 10 年以上の中で最も低かった。HIV 陽性者の 4 分の 3 はすでに抗レトロウイルス治療を受けられるようになっているが、それでも受けられない人が約 1000 万人もいる。HIV 陽性の子供では半数（52%）にとどまり、子供と大人の間での HIV 治療普及率のギャップは、狭まるどころか、拡大しているのだ。

エイズパンデミックにより、2021 年には平均すると 1 分に 1 人以上が亡くなっている。HIV 感染を予防・検査・治療する効果的なツールがあり、日和見感染症の治療もできるのに、年間 65 万人がエイズで死亡していた。

「政治の意思が問われる数字です。私たちは女の子に力を与え、保護することができますか？子供たちがエイズで死亡するのを止めたいのですか？犯罪化よりも命を救うことを優先していますか？」とピヤニマ事務局長は問いかける。「そう考えているのなら、エイズ対策を軌道に戻さなければなりません」

国による違いも大きい。2015 年以降、フィリピン、マダガスカル、コンゴ、南スーダンなどで新規感染が大きく増加した。一方、南アフリカ、ナイジェリア、インド、タンザニアでは、COVID-19 などの危機の中でも、HIV 感染数が大幅に減少している。成果事例は、効果的なパンデミック対策に何が必要なかを示している。中でもコミュニティ主導のサービス、達成可能な法・政策環境を整えること、そして公平なサービス提供が、はっきりと成果につながっている。

パンデミック拡大を促す不平等に対し、緊急の行動をとらなければ、壊滅的な結果を招くことを報告書は示している。国連加盟国は 2025 年に新規 HIV 感染を年間 37 万件未満に抑えることを目標にしているが、現在の対策のまま進めば年間の新規感染数は 120 万件を超えるだろう。国際社会は新規感染に関する誓約を果たせないどころか、その誓約の 3 倍を超える感染が発生することになるのだ。毎年何百万もの回避可能な HIV 感染が発生すれば、すべての HIV 陽性者が治療を受けることはますます困難になり、費用も拡大していく。そし

て 2030 年のエイズ流行終結という目標も達成できなくなる。

COVID-19 パンデミックやウクライナ戦争などの世界的なショックが、HIV 対策のリスクをますます悪化させている。最貧国の債務返済は、医療、教育、社会的保護を合わせた支出総額の 171%に達し、エイズ対策は息の根を止められてしまう。低・中所得国の HIV 対策に対する国内資金は 2 年連続で減少している。ウクライナ戦争により世界の食糧価格が大きく上がり、世界中の HIV 陽性者の食糧不安を悪化させている。このため HIV 治療中断のリスクも高くなっている。

国際連帯と資金の拡大が最も必要とされる時期に、高所得国の多くが援助を削減し、グローバルヘルス資金は深刻な脅威に曝されている。2021 年には、HIV 対策に利用できる国際資金は 2010 年当時より 6%減っている。米国以外の二国間ドナーからの HIV 分野の開発援助は、過去 10 年間で 57%急落した。低・中所得国の HIV 対策資金は、2025 年までに必要な額を 80 億ドル下回っている。世界の貿易ルールは、新たに開発された長時間作用型の抗 HIV 薬を含め、パンデミック終結に必要な薬を低・中所得国が生産することを妨げてきた。これらの国々が大規模に調達することなど到底できない価格を維持しているのだ。

「国際的な支援が最も必要ときに、世界の連帯が行き詰まってしまいました。指導者たちは、巨大な赤い警告灯を一時停止の標識と間違えてはなりません。国際的な支援が急増する機会にしなければならないのです」とビヤナ事務局長は語る。

指導者たちには対策を軌道に戻すことがまだできる。それには国としての行動と国際的な連帯の両方が必要になる。指導者たちは昨年、HIV とエイズに関する政治宣言を採択し、ロードマップに合意した。その約束を実行すれば、2030 年のエイズ終結が可能になる。達成は可能だし、費用も賄える目標であり、実際、エイズ終結は、終結させないでいることより費用もはるかに少なく済む。重要なことに、エイズ終結に必要な行動が将来のパンデミックの脅威に世界が備えることにもなるのだ。

成功に向けたパッケージには以下が含まれている。コミュニティ主導で人びとを中心に据えたサービス；すべての人の人権の擁護、懲罰的・差別的な法律の撤廃、スティグマへの対応；少女と女性のエンパワメント；医療新技術を含む治療への平等なアクセス；すべての人のための医療サービス、教育、社会的保護。

「約束通り 2030 年のエイズ終結は可能です」とビヤナ事務局長は述べた。「しかしそれには勇気が必要です」